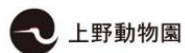


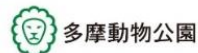
地球環境保全行動戦略(令和4年度～令和6年度)

令和 6 年度 実施状況報告 [本編]

地球のことは、私のこと。未来のことは、今のこと。



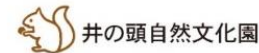
上野動物園



多摩動物公園



葛西臨海水族園



井の頭自然文化園



戦略 1 生物多様性保全への貢献

（１）飼育展示における取組

行動計画① 希少種の生息域内・域外における保全活動に多様な側面から貢献します		
主な取組	R6計画	R6実績
ズーストック種の飼育繁殖	30種以上	保全プロジェクト対象種も含め四園で38種（※）の繁殖に成功 ※当該種数は令和5年1月1日～12月31日の実績であり、複数園で繁殖した種は1種とカウントした。なお、第2次ズーストック計画では東京都環境局所管の大島公園動物園を含め37種の繁殖に成功した。 <例> 【上野】10種 ・マヌルネコ、ルリカケスや保全プロジェクト対象のカワラヒワなど 【多摩】13種 ・50年ぶりに繁殖したインドサイ、5年ぶりに繁殖したアムールトラ、ヨーロッパフラミンゴなど 【葛西】10種 ・フンボルトペンギン、ウミガラス、ゼニタナゴ、トビハゼ、ミナミメダカ、トウキョウサンショウウオ、ニホンアカガエルなど 【井の頭】11種 ・3年連続で繁殖に成功したニホンカモシカなど
環境省保護増殖事業との連携事業	環境省の実施する保護増殖事業への協力	・環境省保護増殖事業と連携し、小笠原陸産貝類、ミヤコカナヘビ、ライチョウ、トキ、オガサワラカワラヒワ、アカガシラカラスバト等の飼育下繁殖や技術開発に協力 ・飼育下繁殖にとどまらず、当協会の技術、経験を活かし、野生ライチョウの精液による人工授精やウミガラス繁殖地でのモニタリング用機材設置作業など、多様な分類群の保護増殖事業に協力し、日本産希少種の保全に貢献 ・トキの放鳥候補個体の提供や、ライチョウ、ツシマヤマネコの人工授精技術開発など、科学的知見の集積
野生生物保全センター機能強化	調査研究の推進と公表	・国内外の会議や学会で研究発表を4件実施（口頭発表3件、ポスター発表1件） ・トキ保護増殖事業における終生飼育個体の適正管理の実現などの長期的な支援に向け、人工飼料の改良などの栄養研究を開始 ・ミヤコカナヘビの保全を目的とした基礎生態調査や、野生個体と飼育下個体の形態的、生態的な比較に関する研究を大学等と連携して実施 ・2023年のアズマモグラの世界初の飼育下繁殖事例の学術誌投稿準備

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（ 1 ） 飼育展示における取組

行動計画② 飼育下における動物福祉の向上と維持を図ります

主な取組	R6計画	R6実績
動物福祉体制	体制の検証及び必要に応じた見直し	・令和 5 年度より当協会内に設置した「アニマルウェルフェア委員会」で、各園及び他園館における様々な取組についての情報を共有 ・令和 2 年度に策定した「動物飼育展示に関する倫理・福祉ポリシー」の見直しを行い、新たに「アニマルウェルフェアに配慮した動物飼育展示等に関する基本方針」として改訂、当協会ホームページで公表
	動物福祉に関する研修の実施	・各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的 to開催 ・2 月に若手職員を対象とした「エンリッチメント研修」を開催し、職員の意識啓発及びアニマルウェルフェア（動物福祉）の向上に資する取組を強化
環境エンリッチメント	エンリッチメント評価基準の試行	エンリッチメント実施件数と主な事例 【上野】129件 ・（ゴリラ）野生下個体のシロアリ採食行動と同じ行動を引き出す給餌器（フィーダー）の製作・使用 【多摩】117件 ・（タイリクオオカミ）藁ボールや大王松を遊具として使用 【葛西】9件 ・（ペンギン）暑さ・寒さ対策として放飼場に冷暖房機能をつけた小屋を設置 【井の頭】27件 ・（ムササビ）ネズミが到達できずムササビのみ採食できる給餌器（フィーダー）の製作・使用
	エンリッチメントに関する研修の実施	・各園で教育普及・飼育展示研究会等を定期的 to開催 ・2 月に若手職員を対象とした「エンリッチメント研修」を開催し、職員の意識啓発及びアニマルウェルフェア（動物福祉）の向上に資する取組を強化

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（１）飼育展示における取組

行動計画② 飼育下における動物福祉の向上と維持を図ります

主な取組	R6計画	R6実績
動物福祉の基準に基づくふれあいプログラム	・学校団体を含む新たなプログラムの本格実施 ・モルモットのストレス評価の新たな手法の開発と実践 ・来園者評価方法の開発と実践 ・障がいのある児童を対象としたプログラムの専門家によるアドバイスと改善	・上野、多摩、井の頭で一般向けの新たなモルモットプログラムを改善しながら継続し、3園合計で約2万7千人が参加 ・上野では学校団体向けの新たなモルモットプログラムを継続し、37校784名が参加 ・井の頭では学校団体向けの新たなモルモットプログラムを開発・試行 ・上野と多摩で参加者の得た学びに関する評価をアンケート調査により実施し、テキストマイニングやAIを活用して分析 ・ふれあいプログラムによりモルモットが受けるストレスの評価検証を大学と共同で実施し、眼球の表面温度による評価を上野で実践 ・葛西の移動水族館活動では、自閉スペクトラム症の方向けのソーシャルストーリーを専門家のアドバイスを受けて制作・公開し、利用する特別支援学校等へ配布
動物福祉に配慮した飼育管理	＜ハード面＞ 調査結果に基づく導入検討・一部導入 ＜ソフト面＞ 対策の実施とセルフチェックの実施	・R5実績に引き続き、次の改善を実施 ＜ハード面＞ 【上野】 ・ゾウ舎放飼場内プールのスクリーン設備の更新（2期目）を実施 ・トラ舎寝小屋の床に防滑塗装を施し、脚部への負担を軽減 【多摩】 ・チンパンジー舎の寝小屋に水飲み用の給水設備を11箇所増設 【井の頭】 ・シカ舎及びオオコウモリ舎の床をゴムチップ舗装に改修 ・モルモット舎及び繁殖棟に扇風機を設置 ＜ソフト面＞ ・R5年度に上野動物園・多摩動物公園が受けた日本動物園水族館協会が実施する第三者評価において指摘のあった飼育環境・飼育方法について、引き続き改善 ・新たに改訂した「アニマルウェルフェアに配慮した動物飼育展示等に関する基本方針」に基づき、飼育管理を実施

戦略 1 生物多様性保全への貢献

(1) 飼育展示における取組

行動計画③ 飼育繁殖事業や調査研究を通じて得られる科学的知見を積極的に情報発信します		
主な取組	R6計画	R6実績
国内外の会議・学会における 発表・報告	35件以上	50件 (内訳：総務部9件 上野15件 多摩13件 葛西12件 井の頭1件) <例> ・A Comprehensive Study of Nutrition Management on Malayan Sun Bears (<i>Helarctos malayanus</i>) Housed in Asian Zoos ・Early Reintroduction of an Infant Western Lowland Gorilla (<i>Gorilla gorilla gorilla</i>) to the Natal Group at Ueno Zoo ・Husbandry Training to Improvement of Aye-ayes' Welfare ・Ex-situ conservation of Japanese rock ptarmigans at Ueno Zoological Gardens ・Care for the Oldest in Japan Near-blind Male Asian Elephant (32nd SEAZA Conference 2024) ・都立動物園・水族園が取り組む両生・爬虫類の保全活動 (第34回日本動物園水族館両生類爬虫類会議) ・絶滅危惧海鳥類保全への動物園・水族館の取り組み (世界アルバトロスデー & シーバードウィーク) ・都立動物園・水族園が取り組む小笠原陸産貝類の保全について (保全シンポジウム「生物多様性保全の10年」～動物園・水族館の挑戦と未来への展望～)
印刷媒体やデジタル媒体に おける調査研究成果の公表	20件以上	12件 (内訳：総務部2件 上野3件 多摩5件 葛西1件 井の頭1件) <例> ・園内のチョウ類調査 調査の経緯と結果について (掲載誌 昆虫園研究) ・“持続可能な採集と展示”を目指すライトトラップによる採集と浮遊生物の輸送 (掲載誌 どうぶつと動物園)

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（２）教育普及における取組

行動計画① 生物の現状や保全活動、地球環境問題について適切な手法を選択し、より積極的に広く伝えます

主な取組	R6計画	R6実績
野生生物の現状を伝える教育活動	野生生物保全に関する講演会・シンポジウム等の開催（年20回以上）	22件 （内訳：上野 6 件、多摩 5 件、葛西 7 件、井の頭 4 件） 〈例〉 ツシヤママネコ保全講演会「動物園と生息地をつなぐ」、ツキノワグマについてもっと知ろう・ツキノワグマミニ講演会、パンダの日記念講演会「ジャイアントパンダ繁殖研究プロジェクトの13年間を振り返って」、身近な水辺保全講演会「知って守ろう水辺の生き物」など
東京に生息する野生動物に関する情報を積極的に発信	効果的な媒体を活用し、積極的・継続的に情報発信	・「GOOD LIFE フェア」での外部出展において、アカハライモリやコウノトリなど東京に生息する希少野生動物についての普及啓発 ・野生生物保全センターと連携し、小笠原のコウゼンやマイマイ類など保全対象種 8 種について野生保全プロジェクトの取組を紹介する動画を制作、特設サイトやInstagramのリール動画で配信 ・「コウノトリまつり2025」（多摩）において、コウノトリの生態や保全の取り組みを紹介するブースを出展
ホームページによる情報発信	新たなホームページにおける情報発信の開始	・ホームページリニューアルのため部門横断型の検討体を設置し、開発事業者選定のための課題や方向性、機能要件などをまとめた提案依頼書を作成 ・公募コンペ方式で開発事業者の選定を行い、複数社の中から次年度の開発事業者を決定
園内の自然を活用した教育普及活動	園内自然環境を活用した教育普及活動のさらなる活性化、教育普及メニューの充実	・ホタル観察会（多摩）や両生類観察会（井の頭）を開催 ・園内植物の適切な維持管理を行うだけでなく、各種普及啓発活動の資源として最大限活用 〈例〉 【上野】 ・コケ玉作り体験、紅葉ツアー、桜ツアー 【多摩】 ・ヤマユリのガイドツアー ・ヤマユリやキンランなどの山野草保護などの活動をSNSで発信 【井の頭】 ・樹木ガイドツアー、ワークショップ ・園内の植物の見どころを紹介する「花ごよみ」、「花ごよみ動画」の配信 【葛西】 ・園内で観察できる四季折々の植物に関するSNSを発信

戦略 1 生物多様性保全への貢献

（２）教育普及における取組

行動計画① 生物の現状や保全活動、地球環境問題について適切な手法を選択し、より積極的に広く伝えます

主な取組	R6計画	R6実績
ボランティアとの連携と協働事業の強化	ボランティアとの協働の検証、研修の継続 ボランティアと連携した教育普及プログラムの展開	・ボランティア活動について、企画書の作成を通じた評価検証と改善 ・不忍池での水鳥バードウォッチングなど新たなプログラムの展開 ・ボランティア対象の研修会を実施（内訳：上野 8 件、多摩29件、葛西 9 件、井の頭18件） ・ボランティア新会員（DG）向けの研修内容を大幅に改善 ・上野で樹木美化ボランティアによる園内植物の手入れ及び落葉清掃などを実施（計 9 回）

行動計画② 教育機関と連携し、実物を介した体験的な学びをととして、環境教育・保全教育をサポートします

主な取組	R6計画	R6実績
教職員向け研修と学校団体向けプログラム等、教育機関との連携	教科書研究による研修内容の改善、コースの充実 教員や専門家へのヒアリングの継続及び結果の分析 障がいのある児童向けのプログラムの開発と実践 中学校対象調べ学習サポートの充実 授業に活かせるパッケージ教材の制作と配信	・教員向け研修はモルモットの飼い方をテーマにした講座を新設、昨年度人気の高かった講座の実施回数を増やし、計12講座23回分の参加者を募集し、のべ620名の教員が参加 ・学校教員へのヒアリングを10件、専門家へのヒアリングを 2 件実施し、成果を 4 園で共有するとともに、パッケージ教材の改善や授業の開発に活用 ・上野の特別支援学級（学校）向けのモルモットプログラムでソーシャルストーリーを試行 ・中高生向けの「レポートチャレンジ企画」は最多の800件弱の応募。レポート作成のための動画制作のほか、学校向けの事前・事後授業を 5 校15件実施 ・新たに「うみのかくれんぼ」、「動物のからだのつくりと運動」のパッケージ教材を制作、配信
保全の担い手を育成するための飼育実習や博物館実習の実施	保全教育プログラムの実施、検証、改善	・世界ゴリラの日、世界ゾウの日など国際的な記念日にあわせた保全教育を 4 園で実施 ・【上野】世界ゴリラの日に国内飼育園 6 園でプログラム参加者の意識調査を実施・分析し、成果を 6 園で共有 ・【多摩】世界チンパンジーの日に実施したプログラム参加者に意識調査を実施・分析
教育普及活動におけるデジタル技術の活用	デジタル技術を活用した動物解説等の充実、新たな教育普及プログラムの実施、VR技術の活用	積極的に新たなデジタル技術を活用したプログラムを実施 ・【上野】世界ゴリラの日のイベントにて、国内 6 施設園をつないで、ライブ配信「ライブ配信で見る、ゴリラたちの今」を実施 ・【多摩】デジタル技術による動物の感触を体験！「アニマルタッチメカランド in 多摩動物公園」を実施 ・【多摩】「コウノトリまつり2025」で、「空間コンピューティング技術」によるAR（拡張現実）体験ブースを展開

戦略2 気候危機への対応

行動計画① 化石燃料由来エネルギーの消費抑制や利用効率化、再生可能エネルギーの利用に努めます		
主な取組	R6計画	R6実績
省エネ型設備・機器、再生可能エネルギー設備の導入	省エネ型設備・機器への転換を継続 一部導入及び新たな設備の検討	【上野・多摩】 ・上野は小獣館周辺の園路灯やサイ舎観覧通路照明など、多摩はアフリカゾウ放飼場や石象橋など、井の頭はゾウ舎に園路を照らすための照明器具をLED化 ・スパールバルライチョウ舎、クマ舎の空調機更新時に環境負荷の低い省エネ型機器を選定 ・不忍池エアレーション制御盤のインバーター化に加え、同設備へ路面太陽光発電設備の組み入れについて、検討を実施 ※仕様を提示し、業者提案を実施した。提案内容の精査と見積書について、検討する。 【井の頭】 ・蛇口を自閉水栓に順次交換 【葛西】 ・ガラスドーム照明器具を従来より高効率な照明器具に交換（24台） ・展示用水槽などの水槽照明を高効率な照明器具に交換（18台）
緑のカーテンや遮熱フィルムの設置	既存施設の維持・充実 遮熱フィルム追加設置等を継続	〈緑のカーテン等を実施（※）追加箇所〉 【上野】両生爬虫類館池側壁面、池之端門脇トイレ、パンダ観覧列（※） 【多摩】ウォッチングセンター 【井の頭】売札場横 【葛西】レストラン無料休憩所 〈断熱フィルム〉 【葛西】ゲート棟改札ブース（※）
協会所有車のEV化と急速充電設備設置	計画に応じた導入	協会保有車両などについての現状調査及びEV車導入に向けた検討を実施
動物糞、残餌を利用したバイオガスプラントの導入	今後の整備工事等の進捗に合わせて調整	その他国内導入事例の調査を実施

戦略2 気候危機への対応

行動計画② 園内樹木を適切に管理し、緑の充実・保全と良好な都市環境の形成に努めます

主な取組	R6計画	R6実績
伐採木の園内再資源化と緑化	再資源化（一部実施） 植栽による緑化やナラ枯れ伐採箇所の樹林再生	【多摩】 ・インドサイ舎放飼場へのチップ敷き均しの活用を継続 ・NPO法人樹木環境ネットワークと協力して補植用苗木を育成・植樹し、ナラ枯れで痛んだ雑木林の再生に取り組んだ
園内樹木の良好な管理	【共通】 ・樹木点検や整姿剪定等、的確な樹木管理を継続 【多摩】 ・ナラ枯れ樹木の伐採、予防措置を継続	【共通】的確な樹木管理、ナラ枯れ対策を継続 【上野】園内樹木への樹幹注入を7月に63本実施し、園内樹木(主に桜)への追肥を7月に実施 【多摩】ナラ枯れ被害木の伐採（259本）

行動計画③ 地球環境に配慮した行動様式の見直しを図ります

主な取組	R6計画	R6実績
省エネ、省資源、再利用の促進	執務室一斉消灯やエアコン設定温度の適正化等、電力使用量削減に向けたさらなる取組の推進	昼休み一斉消灯（総務部）、高効率の機器への転換
ペーパーレス化	事務全般の見直しとデジタル化によりペーパーレス化を推進 ※協会におけるコピー用紙使用量を2019年度比80%削減 順次、システム稼働	・東京動物園協会で、約55%のコピー用紙削減を実施 ※2024年度実績：34万枚、2019年度実績：75.6万枚 ※役員会や採用事務、支払事務等、紙使用量の多い業務や紙使用が当面必須となる業務を特定し、ペーパーレス推進に向けた課題を明確化 ・各種事務のシステム一元化に向けた設計及び開発を行い、出張旅費申請や看護休業等申請の申請様式10件をシステム化協会全体での運用を前に総務部で試行
施設の長寿命化	予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等のさらなる実施	予防保全的見地に立った施設補修・修繕、設備更新等の実施 【上野】 ・東園藤棚パーゴラ及びクマたちの丘パーゴラ・既存弱電端子盤の更新 ・フミンゴ舎の鳥インフルエンザ対策工事で高強度、高耐久のネットへ更新 【多摩】 ・補修による高寿命化に寄与（コアラ下無料休憩所、インドサイ舎放飼場）
ノンフロン冷媒等を使用する機器への転換	機器更新に合わせてより環境負荷の低い機器に入替 冷凍庫等のノンフロン等への更新	【多摩】 ・冷蔵庫2台、冷凍冷蔵庫1台更新 【井の頭】 ・冷蔵庫2台、冷凍庫2台更新

戦略3 循環型社会への寄与

行動計画① 各種資源使用量の削減と再利用を推進します		
主な取組	R6計画	R6実績
ペットボトル使用量削減	自動販売機の設置個所、内容等の見直し（順次実施） ペットボトル回収ボックス設置（1か所／年） ウォーターディスペンサー設置（1か所／年）	・【上野】3月にペットボトル減容回収機を1台設置 ・【多摩】6月にコアラ館下無料休憩所にウォーターディスペンサーを1台設置
飲食・物販店における各種資材の見直し	割り箸、カップ類の使用量削減の施行 その他継続実施 売店等で提供しているプラスチック製品を環境に配慮した資材へ切替(10種)	・【上野】西園食堂にて紙製カトラリーをシルバーに変更 ・売店で使用しているお客様提供用紙製容器の一部をバガスやパームヤシカサパルプを原料とした製品に切替 ・プラスチック製品2種を環境に配慮した資材に切替（残り5種）
ユニフォームのリサイクル化	試行結果を踏まえ、飲食・物販店でのユニフォームリサイクル導入プランの策定・実施	・【多摩】ユニフォームのリサイクル実施 ・【葛西】飲食・物販店の夏用ユニフォームについて、漁網をリサイクルした素材を一部使用したポロシャツに変更
緑のリサイクルの推進	園内樹木の飼料としての活用 維持管理で生じた材の活用 剪定枝のチップ化等	【共通】 ・剪定枝の一部を飼料等として活用 【多摩】 ・園外の再資源化施設にて熱エネルギーとして利用 ・殿ヶ谷戸庭園から提供を受けたシラカシの枝葉をアジアゾウとアフリカゾウの餌として活用 【井の頭】 ・リス繁殖棟で廃棄された丸太を園内人止め柵の杭丸太として再利用 【葛西】 ・剪定枝のチップ化園内再利用、花壇植替時の既存花苗再利用
動物園の飼育展示業務における廃棄物等の資源化	動物園から出る廃棄物の再資源化試行	・引き続き寝藁の再資源化を実施 【上野】（R6 391,195kg） 【多摩】（R6 1,058,400kg）
行動計画② 飲食・物販店や餌等の食品ロス低減等に取り組みます		
主な取組	R6計画	R6実績
飲食・物販店の食品ロス低減	調査の結果を踏まえロス率改善に向けた取組を実施	・昨年に引き続き、総務部と4園の担当で結成したワーキンググループを中心に野菜の廃棄量削減などさらなる効率化を検討 ・主要取引業者と在庫管理に関する情報連携を強化
余った飼料などの園内リサイクル	園内リサイクルの試行	・フンや食品残渣の堆肥化、再利用に関する事例調査を実施

戦略3 循環型社会への寄与

行動計画③ 環境に配慮した国際認証製品の使用など、環境破壊を加速させない取組を推進します		
主な取組	R6計画	R6実績
環境に配慮した認証製品の 使用	・対象用品の拡大 ・ポスター等のFSC認証紙への完全切替 ・業務用洗剤類をRSPO認証への切替等	・販売商品について、順次認証製品へ切替 【共通】 ・焼きそば等に使用する容器をFSC認証かつパームヤシカサパルプを使用したものに変更 【上野・多摩】 ・GOTS認証のオーガニックコットンバッグ販売 【上野】 ・FSC認証紙/ベジタブルオイルインキ使用のフォトブック販売 ・FSC認証材を使用したマグネットの販売 ・RSPO認証の業務用洗剤に関する調査の継続
	対象商品、メニューの拡充	【上野・多摩・井の頭】 ・東京産の牛乳を使用したミルクシチュー再販（11月～） 【葛西】 ・伊豆大島産ウツボとカツオのハンバーグ発売（10月～）
環境に配慮した原材料の 利用促進	試行結果を踏まえた導入プランの策定・実施	【上野・多摩】 ・レストランにおいて、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指す「コウノトリ育む農法」で栽培した「コウノトリ育むお米」を使用（11月～2月）
環境に配慮した製品の使用	順次切替	・バガスやパームヤシカサパルプを原料とした製品に切替 【上野・多摩】 ・バガス製品の環境への貢献を訴求するPRポスターを店舗に掲示し、サステナブルな取組を発信 ・オーガニックコットンTシャツの販売 ・一部TシャツのOPP袋をバイオマスOPPに変更 【上野】 ・アップサイクルコットンタオルの販売 ・工場内で廃棄されるPET生地をリサイクルしたショッピングバッグの販売 【葛西】 ・卵の殻と廃棄ビニールを再利用したリサイクル素材のペンケースの販売

戦略4 地球環境保全に貢献する組織基盤の強化

行動計画① 地球環境保全の推進に向けた実践的な組織体制を構築します

主な取組	R6計画	R6実績
地球環境保全に関する意識啓発	研修を通じた地球環境保全意識の定着を推進	・コウノトリ米を使用する意義をより深く理解するため、上野、多摩のレストラン職員などが兵庫県豊岡市を訪問 ・JAたじまやコウノトリの郷公園を視察し、農家の方々がコウノトリ米に込める自然環境への熱い想いや、施設を通じてコウノトリに関する基礎知識を学び、豊岡市のコウノトリ保全活動への理解を深めた
地球環境保全の積極的な情報発信	「地球環境保全行動戦略」に基づく取組状況をホームページ等に掲載 広告宣伝や4園合同企画等におけるキャッチコピーの活用	・令和5年度の取組状況をホームページで公表 ・園内外のイベント、展示会等で地球環境保全行動戦略を紹介 10月 井の頭自然文化園で開催された「ヤマネコ祭」(ブース来場 約1,600名) 10月 国際展示場で開催された「GOOD LIFE フェア」(ブース来場 約5,000名) 2月 多摩動物公園で開催された「コウノトリまつり」(ブース来場 約150名) ・レストランやギフトショップの環境に配慮した取組を紹介するポスターを新たに制作し、店舗利用者らに当協会の取組を発信

行動計画② 多様な主体との連携を強化し、地球環境保全のための事業を推進します

主な取組	R6計画	R6実績
野生生物保全基金のPR	保全パートナーとの共同研究を拡充 研究成果(報告書)の定期刊行物への掲載	・保全パートナー部門について新たに1件の助成を開始し、継続助成先と併せて2件の共同研究を開始 ・助成対象活動の成果報告講演会を開催し、研究要旨をズーネットで公開したほか、動物園友の会の会誌「どうぶつと動物園」に研究成果をまとめた記事を掲載するなど、保全基金のPRとなる普及活動を実施
中高生等による保全活動への支援	中高生部門の助成対象及び助成件数を拡充 (3件/年程度)	・基金PR活動としてポスターとチラシを作成し、全国の大学や博物館、研究施設、NPO団体、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)、理科教育に関心の高い都立高校等に送付 ・本助成制度を広くアピールするとともに、助成対象活動を公募し、中高生部門の助成を5件実施
サポーター資金寄付方法の拡充	クレジットカードによる寄付システム実施 寄付方法多様化の検討	・クレジットカードによる寄付システムの運用を引き続き実施し、クレジット寄付割合が全体の約6割に ・園内での寄付申込受付用にタブレット端末等の導入を検討